

使用機器：動物用自動血球計数装置 Microsemi LC-662、
グルコース分析装置、血液ガス測定装置 他

天童動物病院 院長
獣医師 栗田 徹先生

必要な検査を、必要なときに実施し 的確な治療方針のもとで治療を行っています。

Q1：院内で検査をするメリットについてお聞かせください。

A1：診断に必要な検査結果がすぐに手に入り、的確な治療方針を迅速に立てることができることです。

検査を外注してしまうと、結果は後日となってしまい、結果を一次治療に反映することはできません。後で「この検査項目も必要だったな・・・」と思うこともあり、必要な検査がすぐに追加できるよう、院内の検査機器を充実させています。

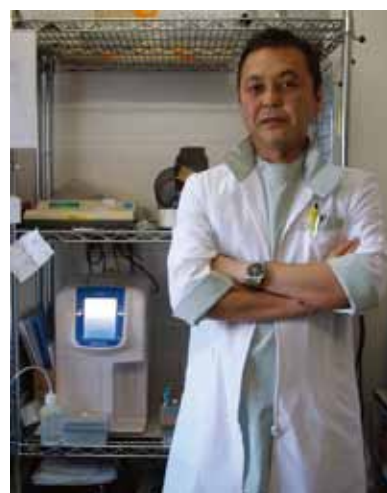
また、多くの検査結果があれば、結果に基づき治療方針が立てられるので、獣医師の経験による差が生まれにくくなります。来院されるすべての患者に、同じ質の治療を提供できる事も院内検査のメリットと考えています。

しかし、院内検査を多く実施するとコストが問題になってきます。**そのため、機器を選定するときには、飼い主の方の経済的な負担が少しでも軽くなるよう、機器のランニングコストが安いことも重視しています。**

ただし、機器のランニングコストが安くても、多くの採血量が必要となるなど、患者の負担が大ききようでは意味がありません。**機器自体の操作性がよいことはもちろんですが、採血量などの患者にかかる負担が少しでも軽いことも、機器選定の基準としています。**



動物病院内検査エリアの様子



栗田 徹 医院長

天童動物病院 院長
獣医師 栗田 徹先生

Q2：検査をする順序などについてお聞かせください。

A2：症状にもよりますが、低血糖症の見逃しを防ぐため、まず血糖検査を行うようにしています。
血糖値を確認した後、血球計数、生化学検査、血液ガスなど、症状にあわせた項目と順序で検査していきます。

Q3：動物用自動血球計数装置を採用する際のポイントを教えてください。

A3：検体必要量が微量で済むことです。

小型種でも血液が採取できないことはほとんどありません。しかし、採取した血液で多くの検査を実施しようとした場合には、一つ一つの検査にかけられる血液量が少ないことが重要です。特に血球計数を行う際には、生化学で使用するヘパリンを抗凝固剤として使用できないため、血球計数装置専用 EDTA 塩入り採血管へ採血した血液を分注しなければなりません。そのため、血球計数装置はより微量で測定できることが重要となってきます。

しかし、微量のための専用の容器を購入するなど、コストが高くなってしまいうような意味がないため、採血管の形や大きさに左右されることなく測定ができ、かつ微量で測定できることが採用ポイントとなります。

ここでいう微量とは、測定する際に必要となる検体量のことを意味しています。測定に使用する検体吸引量が微量であるため、トータルの検体量が少なく済むことが何より重要です。

栗田先生、ありがとうございました。



天童動物病院の皆様



イヌ・ネコの血液検査の業務を軽減できる検査装置

動物用自動血球計数装置

Microsemi LC-662

- Microsemiシリーズの使い易さを引き継いだ、動物用の血球計数装置
- 検体吸引量：10μL
- 測定時間：約70秒 ● 測定項目：CBC20項目
- タイマ機能 ● タッチスクリーン ● プリンタ内蔵

販売名：動物用自動血球計数装置 Microsemi LC-662
製造販売承認番号：農林水産省指令22動薬第1806号